

## “ポケモン”哲学から見る現代の子供たち

### 『ポケットの中の野生』

子供たちの間にブームを起こした携帯型ゲーム機用のゲームソフト、ポケットモンスターは97年のキーワードだ。通称ポケモンと呼ばれるこのゲームのヒットには哲学的な意味があり、その秘密を本書で知ることができる。

単なるゲームの1つでしかないとか、キャラクターがかわいかったり、アニメーション化されたからヒットしたと認識しているならば、子供がポケモンを選んだ理由は分からないだろう。かつて、インベーダーゲームに熱中した世代もすでに、三

十代、四十代になっている。なぜ、あの頃、インベーダーゲームに夢中になっていたのだろう。この答えを知りたいと思うのなら、ぜひ読むべきだ。

ベゴマ、メンコ、仮面ライダーカードを子供のころに遊び道具にしていた大人ならば、ポケモンのヒット理由を理解するのは容易だと思う。

ポケモンの開発者へのインタビューや子供のポケモン哲学を通して、ポケモンが奥深いことを知るだろう。

そして、さらには、現代の子供について深く知ることができる。幼稚園児から小学生

の子供を持つ親は、この本から我が子の内面に触れることができるかもしれない。

時代が違っていても子供は変わっていないと思えたとき、ポケモンに興じる子供たちがより身近に感じられる。



中沢新一 著  
岩波書店 発行  
174ページ  
本体 1200円 + 税  
ISBN4-00-026068-5

# 今また哲学を考える

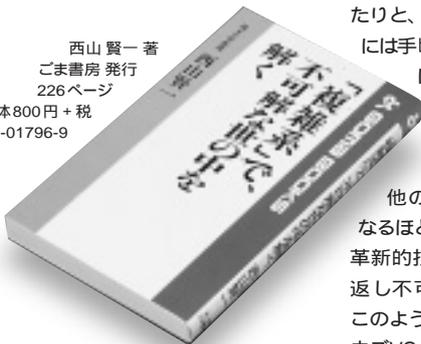
菊地宏明 Hiroaki Kikuchi

## アップルとマイクロソフトを複雑系で知る

### 『「複雑系」で、不可解な世の中を解く』

西山 賢一 著  
ごま書房 発行  
226ページ

本体 800円 + 税  
ISBN4-341-01796-9



97年にはやったもう1つのキーワードが複雑系だ。

エントロピーの法則、カオス理論、非線形開放系、フラクタル、ゆらぎ、相転移、収束増、自己組織臨界状態という複雑系で使われるキーワードを解説しながら、複雑系は身近にあることを教えてくれる。複雑系についての入門書だが、堅苦しい本ではない。

嫌われる上司と好かれる上司の対比で、単純系と複雑系

の概要を説明したり、ウィンドウズとMacOSのシェア争いを正のフィードバックで解説したりと、電車の中で読むためには手頃な肩の凝らない内容になっている。

いったんある程度普及すると、正のフィードバックにより、他の追従を受け付けなくなるほどに広まり、次世代の革新的技術でもない限り巻き返し不可能な差をつける…。このような説明で、ウィンドウズVS MacOSを解説するのは面白い。マイクロソフトがネットスケープを脅威と感じているように見えるのも、正のフィードバックが動くか否かの瀬戸際であるからだと推測することもできそう。単純系では説明できなかった諸々の事象が複雑系で説明できるかもしれないと思うと痛快である。まだ、複雑系がなにものか知らない人は、これを機会に知ってみるのはどうだろう。

## 年代を超えたデジタル哲学論

### 『おとなの哲学 子どもの哲学』

雑誌の特集に、テレビ番組のテーマにと、97年に各メディアは幾度となく「哲学」を取り上げていた。脳死問題やペルー大使館事件など、生きることや死ぬことについて考えさせられる事件も多かった。

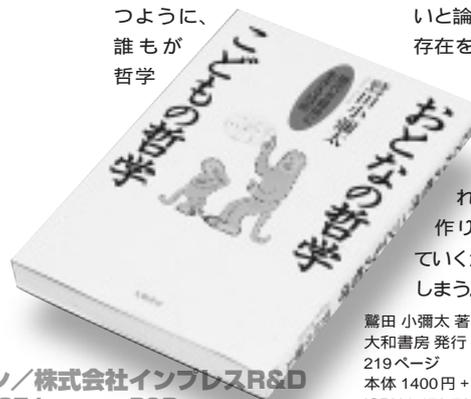
人生や暮らしについて考えることがダサイと思われた時代は変わりつつある。再び哲学を学ぼうとする風潮は、続くだろう。そして、哲学は、文系だけの専売特許ではない。万人がそれぞれの人生観を持つように、誰もが哲学

を持っている。本書は哲学を始める手引きになるはずだ。

小人（しょうじん＝大衆）のための哲学、子供のための哲学、哲学とはと語られる中で、著者は「哲学の本質はデジタルだ」と言い、哲学的思考の中心はデジタル思考で、プラトンもデカルトもデジタル人間であったとしている。

もちろん、コンピュータを操る人を指してデジタル人間と呼んでいるのではない。しかし、このように表現されると、プラトンやデカルトが親しく思えてくるから不思議だ。また子供のための特別な哲学はないと論じ、改めて子供という存在を確認している。

年代を越えて子供から高齢者までインターネットでそれぞれの哲学を展開していければ、新しい精神文化を作り上げるインフラになっていくかもしれないと期待してしまう。



驚田 小彌太 著  
大和書房 発行  
219ページ  
本体 1400円 + 税  
ISBN4-479-79024-1

## 21世紀に求められる7つの知とは

### 『複雑系の知』

複雑系の知識は単なる教養にとどまるわけではない。社会を生きる知恵としても使えるようである。

本書では、21世紀に求められる7つの知として、複雑系の知を紹介している。7つの知とは、ポエットの知、インキョウペーターの知、ストーリーテラーの知、アントレプレナーの知、セラピストの知、ゲームプレイヤーの知、アーティストの知である。それぞれ、社会の本質を知る知恵、社会の現実を変えるための知恵、社会の創発を促す知恵、歴史に参加するための知恵、社会の問題を解決するための

知恵、社会の法則を生かす知恵、未



田坂 広志 著  
講談社 発行 205ページ  
本体 1500円 + 税  
ISBN4-06-208762-6

来を知るための知恵だという。

全体的には、ビジネス書としてまとめ、複雑系の用語解説は詳しくされていない。複雑系についての入門書と併せて読むとよい。

やはり、ウィンドウズとマックintoshのシェア争いの話題に触れており、ゲームプレイヤーの知の章で、先の本と異なる視点から、正のフィードバックが起こる前の展開について解説している。

また、インターネットが変革をもたらす要素をいくつかの章で取り上げている。インターネットと社会のかかわり合いを複雑系の知識をもとに再確認する試みは興味深いだろう。

千々岩 英彰 著  
河出書房新社 発行  
206ページ  
本体 667円 + 税  
ISBN4-309-50133-8



## 人間の心理と色彩の関係

### 『人はなぜ色に左右されるのか』

初めて訪れるホームページは、最初にWWWブラウザに表示されるイメージで、その第一印象が決まる。その中でも背景色とホームページタイトルの配色で、クールだとか、ホットだとか、ダサイとか感じるところがあるように思える。たとえば、知的なページやテクニカルな情報が掲載されているはずのページの背景色が、赤や紫であったためにアダルトページと間違えて、急いでページを変えた経験はないだろうか。

配色のために、意図しないホームページの印象を相手に与えるのでは、ホームページ作成者としてはまずい。では、

どうしたら良い第一印象を与えることができるか。人間の心理と色彩の関係を知ることだ。

本書はタイトルにあるとおり、色と心理の関係を美術大学教授が解説している。「ヒトは色からどんな感情を刺激されるか」、「色の快不快の印象は誰でも似ている?」、「色を利用して自分を演出する」などの見出しを見て分かるように、暮らしの中で見られる色彩と心理について解説している。

これを、ホームページに応用するといふ、カラーページが少ないので、色名と色の対応がつかないなら、画材屋で色見本を購入して参照することをすすめる。

## SF的視点で未来を予想する

### 『次の500年』

かつて「次の1万年」という遠い未来の予測を行った本の著者が、今度は500年先の未来を予想する。

なぜ、500年なのか。コイン投げで表の出る確率を実験した場合、投げる回数が少ないと、理論値である1/2にはならない。投げる回数を1000回、1万回と増やしていくことで理論値に近づく。未来予測もある程度先の未来でないこと予測しにくいとしている。そのうえで500年という期間が予測を実現するための十分に必要時間だという。

多くの文献で各分野の専門家が、それぞれの未来を予測しているが、ことごとく失敗している。それよりも、SF作家が描く未来像のほうがはるかに実現、成功していることに着目し、著者はSF的な視点で未来を予想しようと試みている。

思わず納得しそうになるが、ふと考える。今から500年前の日本を考えると、室町時代になるはずだ。そのころに20世紀の日本を予想することができただろうか。著者の理論には少々西洋文化の奢りも感じられる。

97年末は、地球温暖化対



エイドリアン・ベリー 著  
茂木 健一郎 監修  
三枝 小夜子 訳  
徳間書店 発行  
339ページ  
本体 1800円 + 税  
ISBN4-19-860738-9

策が話題になったが、本書では、氷期が訪れることのほうに着目している。そういえば、70年代には、人類滅亡のシナリオに挙げられていた氷期の襲来が最近聞かれなくなっていた。温暖化が進むのか、氷期がやって来るのか分からないが、未来を予測するのが難しいことには違いない。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)